

防災訓練が行われました

式年神幸祭大役お疲れ様

気象、地震災害の増加に備え、地域防災力の向上を



非常用簡易トイレの作成、使用訓練

近年、全国的に気象、地震災害が増える中、地域での備えの重要性が高まっています。津宮地区では、こうした状況を踏まえ、住民一人ひとりが“いざ”に備える力を身につけるための防災訓練を継続して実施しています。

令和 7 年 11 月 30 日（日）、香取中学校体育館にて、津宮地区自主防災訓練が行われました。当日は消防隊員や 69 名の皆さんが参加し、地域の安全を守るための大切な学びの時間となりました。参加者の中には、区の防災会が独自に作成したヘルメットを着用する姿も見られ、日頃から防災への意識を高めようとする取り組みが感じられました。訓練では、災害時に欠かせないテント、簡易トイレの設置や使用方法を、実際に組み立てながら確認しました。「使う場面が来ないのが一番だけれど、いざという時のために覚えておきたい」という声も多く、体験を通して理解が深まった様子でした。テント作成は意外と簡単！でもしまうのが意外と難しく手こずっている人も多く、訓練なので和気あいあいと体験していました。一方で、昨年と比べると今年の参加者は大きく減少しました。近年は線状降水帯の発生や台風の大型化など、災害が起きるたびかつてない！と言われる異常気象災害が増えており、地域の備えはますます重要になっています。こうした状況だからこそ、より多くの方に訓練へ参加していただき、地域全体で防災力を高めていくことが求められています。



テント、ベッド組み立て訓練



ベッドよし！

「避難路を確認！」

「命を守る行動を！」

備えあればうれいなし！



身障者の移動訓練

津宮まちづくり協議会では、今後も無理なく参加できる内容を工夫しながら、防災訓練を続けていきます。次回もより多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

式年神幸祭大役お疲れ様でした



足揃え記念撮影 水の郷小学校にて

12年に一度、午年にのみ行われる香取神宮の式年神幸祭も無事終え、津宮地区は隊列の先頭位置という大任を無事に果たされ、様々な役を担われた地区の方々や参加された皆さんもホッとしているのではないかと思います。そのような中で、12年ぶりで、当初心配されていた獅子舞も多く、多くの演者を結集し、短期間で見事な舞を各所で披露、神幸祭を見に来た人達から多くの讃嘆の声が耳に入りました。今回は獅子舞の実現に向けて重責を担った会長はじめ、メンバーの声を頂戴しましたので披露します。



利根川鳥居河岸にて

獅子舞支援会の当初目的を果たして

本誌 21 号 令和 6 年 9 月で報告した通り、区長会とまちづくり協議会合同でプロジェクトチームを令和 6 年 7 月に結成、神幸祭に獅子舞を奉納する行動計画を決定し、さっそく獅子舞支援会を発足させました。令和 6 年 11 月より全地区に演者募集活動を行ない、時間はかかりましたが 15 名の応募がありました。これを受け令和 7 年 11 月よりスタッフ 9 名と共に練習を始めました。令和 8 年 1 月に獅子頭を付けての練習も始まり、本格的に衣装を着けての練習にも熱が入り、3 月の足揃えで、地区の皆様披露する運びとなりました。そして本番である 4 月の神幸祭には前衛である津宮地区の中心として

2 日間供奉できました。伝統芸能である 3 匹の獅子舞の神幸祭への奉納舞は、前回平成 26 年より玉造地区が、今回令和 8 年は返田地区が不参加となり、状況は後継者不足と聞いておりますが、資金的にも厳しいと感じています。当獅子舞奉納についても前回平成 26 年の倍額の費用が掛かっております。私の知る限りでは明治 27 年奉納より 130 年余りの長きにわたり受け継いできた新田地区の皆様の努力には敬意を表します。今回取り組む中でいろいろと問題点や課題が見えてきました。次回 12 年後に向けて伝承できることが必須ですので支援会を発展的に解消し、新しい組織を作りたいと思います。地区民の皆様には引き続きご理解とご支援をいただきたくよろしくお願い申し上げます。会長 高木 勇



神幸祭に笛隊として参加して

笛隊として本田地区から参加募集があり、高齢ながら参加を希望してスタート、笛隊参加者（女性4名）、（若者3名）の中に入り、久保木宗一師匠の元、ドレドシドシラソファの音符を吹くことから始まる。横笛は穴が6個の指口元の調整腹式呼吸で息を長く吹く訓練が必要で演奏が困難な楽器です。獅子舞は4曲の演奏で「四方固め」「おせんだうもうし」「縄くぐり」「道笛」で獅子舞と太鼓のリズムに合わせて笛隊が奏でる歴史のある舞です。獅子頭を所持保存されている久保木宅への獅子頭の仮受け、お返し行事、足揃えでの町内行進で獅子舞の演奏ができ、徐々に度胸もついて本番出発！鳥居河岸から御座船への乗船（私の目標でした）佐原街道を行進、神宮に到着しての本殿前での獅子舞披露では、笛隊に挑戦して本当に良かった！と思いました。最後に役員の方々のこれまでの準備、段取りの良さに演者達は集中して演奏する事が出来た事、そして10区の皆さんには指導をいただき、大変ありがとうございました。追記：香取神宮宮司と共に万歳三唱
バンザイ、バンザイ、バンザイ

2区 鈴木紀幸



初日 香取神宮を出発



初日 御座船乗船

式年神幸祭の獅子を経験させていただいて

非常に歴史のある文化だと思いました。私が被らせていただいたのは雌獅子です、最初に踊るため少し緊張してしまいましたが、自分の中ではよく踊ることができたと思います。約半年の練習期間がありましたが、最初はやはり難しく、本当は自分にできるのか不安になることもありましたが、獅子舞支援会の皆さんのサポートがあり、しっかり練習に集中して取り組むことができたと思います。そして今回初めて津宮本田の人が獅子をやると言うことで、何も分からない中、作法や踊りを教えていただいた10区の皆さんにも感謝をしたいと思います。今回に至るまで10区の方々がどのような思いで獅子舞を受け継いできたのかそれをしっかり理解し、次の世代に引き継いでいくことが次の役割だと言うことも、大切だと思いました。12年後には獅子の師匠として参加することになると思いますが、今回教えてもらったことや、歴史を教えられるようにしたいと思います。

久保木幸太



初日羽生惣吾商店にて



初日佐原消防署脇交差点

式年神幸祭を終えて

私は式年神幸祭で雄獅子を務めました。私自身これまで地域の祭りなどにかかわったことがあまりなく、とても緊張していました。初めての練習の時には少し独特な雰囲気があり、やっていけるのか心配でしたが、前回の獅子を担当していた3人の師匠が優しく親身に教えてくださり、とても心強かったです。

日が経つにつれて獅子の踊りが上達してきたのか、他の獅子との踊りのタイミングが揃うようになってきて、充実感を得ました。「思っていたよりもできるかな？」そう思っていたましたが、初めて獅子の面を着けて踊った時、自信がなくなり、今までできた踊りができなくなってしまったことは、今でも覚えています。

初めて被る獅子の重さや、視界の悪さ、音が聞こえにくいことなどに苦労しましたが、それでもめげず練習に取り組みました。最終的に他の獅子との動きを合わせることができ、踊りも自信をもって踊れるレベルまで上達できました。本番では少しの動きのズレがあったものの、堂々と雄獅子を演じることができました。今まで祭り等の地域の行事に関心が全くなかった私ではありますが、今回の式年神幸祭を通じて、地域の伝統を守っていくことの大切さ重みを身に染みて感じました。

最後になりますが、支えてくださった師匠、一緒に頑張ってくれた獅子の2人、そして獅子舞支援会の皆様ありがとうございました。

大島俊太朗



初日市役所前で獅子舞披露



2日目忠敬橋



2日目忠敬橋

利根川を渡る獅子の如く一歩踏み出す勇気が大切！

12年に一度しか行われない香取神宮の式年神幸祭で、津宮の代表として獅子舞を奉納できたことを大変光栄に思います。地域としても家としても名誉であることであり、その大役を務められたことは、自分にとって忘れられない経験となりました。

私は12年前8歳の頃に稚児として神幸祭に参加しており、その時見た獅子舞に憧れて、真似をして遊んでいました。まさか12年後自分自身が獅子として舞う立場になることは思ってもいませんでした。私が務めた中獅子には、「水を苦手とする獅子が勇気を出して利根川を渡り」、香取神宮と鹿島神宮を結ぶという意味があります。

その舞を演じながら、自分自身も一歩踏み出す勇気の大切さを感じました。練習や本番は大変でしたが、伝統ある舞に自分なりの表現を加えながら演じることができ、とても楽しかったです。

そして自分が幼い頃に憧れたように、次の世代の子供たちが将来やってみたいと思っていていたら嬉しく思います。

高木勇太郎